日刊 動労千葉

87. 3. 10

No. 2497

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一一八（動力車会館）
（鉄電）二九二五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

国鉄「分割・民営化」阻止！三里塚二期着工粉砕！

右翼・勝共連合に屈服した正真正銘の転向集団＝革マル

転向しても松崎は革マルだ

勝共連合「世界日報」松崎発言を徹底的に断罪せよ（その1）

すべての国鉄労働者、とりわけ動労組合員の皆さん。動労委員長・革マル松崎は、「勝共連合」の新聞である『世界日報』紙上において、あらためて天皇・中曽根に完全転向＝忠誠を誓ったのである。革マル松崎一派が「延命」するためにのみ、労働者を犠牲にし、資本に売りわたし、動労をたたきこわすことが松崎によって好き勝手にやられてきた。空前の裏切り者・転向者である松崎をこれ以上、許しておいていいはずがない。いまこそ、革マル・松崎に訣別し、動労総連合に結集せよ。

右翼・勝共連合にも膝まずく

二月二四日付の勝共連合「世界日報」が革マル・松崎の転向を一面トップでデカデカと報じている。革マル・城石が同席した中で、編集局長との一問一答で行われた　その一言一句が労働者にとって断じて許し難いものである。

右翼・御用組合―スト絶滅―労働組合の産報化、そして労働者を戦争へ引きずり込むこと、これが松崎のデッチ上げた「鉄道労連」――企業一組合の正体だ。

革マル・松崎は、

第一に「核戦争に賛成、原発の必要を認める。そして、安保、自衛隊に前向きに取り組む」、すなわち侵略戦争に賛成だというのだ。

第二に、「右翼・安岡正徳の『東洋の思想』＝天皇制を賛美し、マルクス・レーニン主義はダメ―訣別する」と転向を声明したのである。

第三に「スト権が付与される新会社においてストライキをさせない、これが私の使命である」とスト絶滅を宣言した。

第四に、「社会党と近い将来に縁を切り、自民党を支持する」と言っているのだ。まさに怒りなしには読めないものだ。

会見終了後、同席した動労革マル・城石は「松崎発言を国民も信じていいのか」との問いに対して「百パーセント信じていい」とまで屈服を誓ったのだ。それは松崎や城石ばかりではない。動労の全組合員に転向の証しを要求しているのだ。

動労全組合員に転向を強制

革マル・松崎が鉄労に屈服し、自民党に屈服してもそれだけでは納まらない。許してはくれない。右翼にまで身の証しを迫られ、そればかりか、あげくに組合員にも土下座をさせようというのである。

いま、「反共」「天皇制」の旗をかかげて右翼のフトコロにも飛びこんだ革マル・松崎を打倒し、革マル「鉄道労連」を粉砕することがすべての国鉄労働者の急務となった。

世界日報　The Sekai Nippo　昭和62年（1987年）2月24日（火曜日）

本紙会見

社会主義と決別

松崎動労委員長が言明

社会主義との決別を宣言する松崎動労委員長＝23日

ソ連、北朝鮮に幻滅

違法スト、国民におわび

革マルと縁切り　社党支持は解消へ

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！